

老人ホームは姥捨山なんです

川崎老人ホーム転落事件で次々と暴かれる介護事業の間



閑静な住宅街に佇む「Sアミーユ川崎幸町」が一転、渦中の施設に

川崎市の介護付き有料老人ホーム「Sアミーユ川崎幸町」で昨年11〜12月にかけて、87歳男性、86歳女性、96歳女性が相次いで転落死した事件は、川崎市も指摘するように「不自然」すぎる。施設の向かいに住む男性に話を聞くと、「(86歳の)女性が転落した夜、男女の口論を聞いた。その後ドスツという音がした」という。

この施設では今年5月に20代の男性職員が女性入居者の現金数万円を盗んだ疑いで逮捕され、懲戒解雇されていた。職員は転落事故が起こったはずれの日も当直に入っていたが、本人は転落死への関与を否定。本誌の直撃取材に対しても、「一切お話しできません」

というばかりだった。「Sアミーユ川崎幸町」で起きていた問題はこれだけではない。

今年5月には、入居者の家族からの通報により聞き取り調査を行なった結果、

市は口頭注意だけだった

「Sアミーユ川崎幸町」は、介護事業を幅広く手掛けているメッセージグループの系列店である。

「メッセージは97年に居住系のグループホーム事業に進出し、『入居金ゼロ』を謳った老人ホームをウリとして急拡大、04年にはジャスタック上場を果たしている。コスト重視で展開しているため、全国平均に比べて介護職員が少ないことが

4人の男性職員が虐待に関与していたことが判明。『死ぬ』などの暴言を吐くほか、頭をゲンコツで殴るといふ暴力もあったようです」施設を管轄する川崎市高齢者事業推進課の関川真一課長

指摘されていました」(高齢者住宅の相談を行なう田村明孝氏)

Sアミーユはメッセージグループのなかでは高級だが、それでも月額22万円と、全国平均の約24万円を下回る。だが、コスト重視の弊害は大きかった。昨年まで同社の別施設で働いていた元職員が打ち明ける。「会社はものすごい勢いで施設を増やし続けていて、本部の偉い人は『コンビニのような施設展開をした』』といっていました。でも、ただでさえ介護業界は人手不足ですから、職員の採用と育成がまったく追いつかない。だから、サービスは現場に丸投げでケアが手薄になっていた。遊戯や体操のような行事もほとんどなく、『自立を促す』といった大義名分で一日中テレビを見せるだけということもよくありました」

前出の男性職員が入居者への窃盗を繰り返したのも、職員なら誰でもマスターキーで入居者の部屋に出入りできる状況にあったからだ。管理体制がずさんだったというほかない。さらに今回の事件では、川崎市の対応にも疑問が残る。市側は、「1件目と2件目の転落事故の報告後、いずれも施設長に口頭で再発防止の指導をした」(前出、関川課長)と説明するが、市も「不自然」と認める事故を前にして口頭注意だけで済ませていたのは明らかにおかしい。